

# 共学校の先輩—角田高校

角田高校は平成17年に統合して6年目を迎えます。統合する上では、大変な苦労があったと聞いていますし、その良さを一つ一つと、地域の方も職員も、生徒も保護者も取り組んできました。

### 生徒たちの意識に変化は？

統合初年度は、1年生は共学として、2、3年生は別学で生活していた中で、統合とあって、生徒同士での気持ちに開きがあったと思います。それが次第に一体となり、自然な落ち着

融合—その実現に向けて努力することが教育そのもの。課題にこそ大きな可能性を見つけて切り開いていってほしいです。

きが出てきました。男子と女子が体育大会や定期戦などを、ごく自然にできるようになったという意味では、生徒たちは変わったのだと思います。生徒会では、平成21年度に初めて女子が生徒会長となりました。それも自然な形としてみんなが受け入れていきます。

### 地域とのかかわりに変化は？

地域の方々には、統合したことでも地域の活動に積極的に参加し

### 定期戦について

定期戦は、仙南の雌雄を決するということ、文武両道の2つの学校が切磋琢磨して、その勢いで仙台勢に対抗していくぞという気持ちを高めるとい意味

で、非常に教育的意義があると思います。今後も継続していいことという話になっていきますが、仮に定期戦という形でなくても、交流を通して両校が切磋琢磨する機会というのは、何らかの形で持つていきたいと思っています。今後の課題はありますが、学業でも部活動でも、定期戦の趣旨が生かされるような形を模索していきたいと思っています。

●宮城県角田高等学校  
平成17年4月、旧角田高等学校と旧角田女子高等学校が統合して開校。定期戦をはじめ仙南の雄を競う好敵手として、統合前から白高・白女と深いかわりを持つ。現在は、本年12月の完成に向けて新校舎を建設中。



宮城県角田高等学校  
第3代校長 今野 充章 さん  
KONNO MITSUAKI

—PROFILE—  
昭和27年蔵王町生まれ。平成21年から現校長。平成21年から共学化した仙台三高で平成19・20年と教頭、平成15・16年には白石高校定時制課程中心校の教頭として在籍

白石高校へのメッセージ  
男子と女子が互いに協力して、人格的にも尊重し合いながら社会をつくる—たとえ少子化の流れとしても、これが本来の形なのかもしれません。男女共学によって最初は気持ちの溝がある、それがどんどんひとつに融合していく。それが大きな成果だと思っています。その実現に向けて努力することが教育そのもの。課題があるから後ろ向きになるのではなく、そこに大きな可能性を見つけて切り開いていくことが必要だと思います。



本年12月に完成予定の角田高校の新校舎鳥観図



宮城県白石高等学校  
初代校長 千田 芳文 さん  
CHIDA YOSHIFUMI

—PROFILE—  
昭和26年岩手県金ヶ崎町生まれ。名取高・仙台二高教頭、県教育委員会を経て、平成18年4月から旧白石高校長を務める。

地域とともに—両校の歴史と伝統を継承・発展させ、新たな校風と歴史を築いていくために全力を尽くします。

統合の話が出た当初、県では両校を閉じて新しい高校をつくる計画でした。それが「両校の歴史と伝統を継承した新しい白石高校」に基本的な考え方が変わり、両校では閉校式を行わず、開校式だけを行いました。

### これからの白石高校

本校の教育目標は「21世紀の社会を担う人材育成」。普通科は進学重視型の単位制を導入しました。普通科のニーズはやはり進学。ただ、それはひとつの目標であり、それだけではなく

自ら探求する姿勢などを身に付けた生徒を育成することが重要です。これを今以上に伸ばしていきたいと思っています。また、全県一学区の話もあります。仙台に行かなくても、「自分の将来の夢を達成できる学校」にすることも大きな使命です。

### これからの白高生に

高校時代をよくグライダーに例えます。滑走して離陸して、風をつかむまではある程度教師が導いてやる必要がある。ただそこからの飛行は自分で気流を

とらえていかなければならぬ。自分のあごでかみ砕いて、消化吸収するような咀嚼力を身に付け、困難なことにチャレンジする心が大事と考えます。

高校生は子どもから大人へステップアップする時期です。そのシンボリックなものが、応援練習と定期戦でした。あの大変さを乗り越えて初めて、一人前の白高生として認められる。定期戦を終えると見違えるようにたくましくなります。単なるスポーツ・対校戦以上の意味があると思います。これからはずっと

続けていければと思います。また、白女には合唱祭がありました。みんなで協調して一緒

に作り上げていく、社会性や創造性を身に付けるのに大きな役割を持つていたので、これもぜひ続けていきたいと思っています。

高校は地域とともにあるべきと考えます。白高は、地域との連携という点では少し弱かった思いがあります。地域の中で育てられ、支えられてきた学校です。「白石高校がこういうことをしている」ということを発信する必要があります。ピーアールの点では白女の取り組みを参考に、積極的に地域の皆さんとかかわっていききたいです。

もうひとつは、中学校との連携です。白女ではこれまで、夏休みの期間を利用して中学生が授業を受ける機会を設けていました。中学生が高校の施設で勉強することはとてもいい刺激になりますし、間接的には学力の向上にもつながります。

●終わりに—  
統合をチャンスに  
自分が通った学校がなくなる：少子化といった時代の流れとはいえ、両校の同窓生や地域の方々にとっては、複雑な思いもあるだろう。

取材を通して感じたこと…それは、多くの方が男子校・女子校だったことに誇りを持っている。そして、「統合は寂しい」と話す一方で、「伝統を引き継ぎさらにいい学校になれば」と前向きに答える方が多かった。時代が変われば、求められるものが変わる。看護科には男子2人が入学した。また、開校翌日からは女子が私服で登校する姿も見えた。

新しいことを始めるということとは、とても大変なことである。今年1年はとまどうことが多くなるだろう。しかしそれ以上に、この歴史的転換期をチャンスに生かせないだろうか？ そのためには、高校だけでなく地域がどうかかわっていくかが重要となる。仙南の拠点校として、白石の人材育成の拠点校として、この新しい白石高校が地域とともに発展していき、高校と地域が手を取り合って育っていくことを期待したい。

●特集 統合～白高と白女～ 終わり